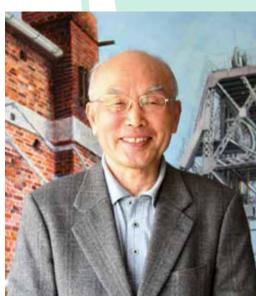
ひとの 米ちから **CLOSE**



わたなべ・おきつぐ 1941 (昭和 16) 年生まれ、 台在住。大牟田美術協会・青々水彩画協会会員。好きな作品は平山郁夫が描く砂漠とラクダがモチーフの絵

荒尾美術協会会員

渡邉興亜さん

ているそうです。 を撮ったりして、 ば、スケッチをしたり、写真 います。気になるものがあれ た」。モチーフを探しながら、 したが、もともと好きだった 渡邉さんは散歩をして すぐに夢中になりまし

さんの生活の一部になりまし 絵を描くことがすっかり渡邉 参加と、毎日2時間、家事の 引き立てたる工夫をすること るものを消したりと、主役を ないものを持ってきたり、あ あります。けれど、実際には た。今までに美術展で入賞し 台間に筆を執っているうちに、 できると思うんです_ 月2回の絵画サークルへの 見たままを絵に描くことも 感動を得たり、与えたり

> た作品は18にも上ります。 「美術展に足を運ぶなど、

描いた絵を通して、

邉さん。英語がうまくなりた り入れるようにしています」。 今でも健在です。 付き、語学の習得に奮闘して さまざまな国を訪れていた渡 現役時代は技術指導のため、 いた若い頃からの学ぶ姿勢は いと、英語を話せる人に張り 絵を見て、いいところは取

風景画を水彩絵の具とアクリ

ル絵の具で描いてきました。

一絵を描くのは中学生以来で

てから、

百枚以上の静物画や

邉興亜さん。 7年前に退職し らえる。それが絵を描く醍醐 んの人に自分自身を知っても

目を細めます。 れるようになりました。何も との交流で、多くの人と関わ ませんでした。しかし、今は の人としかお付き合いはあり のにも代え難い財産です」と た絵を見てくれた人たちなど 絵画サークルの仲間や出品し 退職するまでは、 仕事関係

構想を練っ

重ね、楽しみながら絵を描き も挑戦してみたいです」 あるので、今度は外国の絵に でいた頃に撮りためた写真も 続けたいですね。外国に住ん ⁻現状に満足せずに研さんを

は人生という名のキャンバス に色を重ねていきます。 ように、これからも渡邉さん 渡邉さんの描く美しい絵の



こ: 恋心 3 渡邉さんが所属する水彩画サークル彩の会 4 県水彩画会展で最高賞を受賞した『万田坑』